
**経堂駅駅前広場及び周辺道路比較検討案策定委託
報告書**

平成14年3月

**発注機関
作業機関**

**世田谷区
パシフィックコンサルタンツ（株）**

目 次

I 現状の整理	1
1 経堂駅駅前広場及び周辺道路整備の必要性	1
2 経堂駅周辺の現状	2
(1) 経堂駅の現状	2
(2) 周辺道路状況	2
3 経堂駅周辺の関連事業	8
(1) 小田急線連続立体交差・複々線化事業（都市高速鉄道第9号線）	8
(2) 高架下利用計画	8
II 変更案の比較検討	10
1 駅前広場の変更案	10
(1) 駅前広場の当初計画案	10
(2) 駅前広場の当初計画案変更の必要性	12
(3) 駅前広場計画の考え方の整理	13
(4) 駅前広場変更案の比較検討	18
2 接続街路の変更案	23
(1) 当初計画案	23
(2) 当初計画案変更の必要性	23
(3) 接続街路の廃止	25
(4) 接続街路の幅員変更の比較検討	25
(5) 将来交通量推計結果	28
(6) 補128×（仮）世田谷区画街路第8号線交差点の交差点飽和度の検証	32
III 変更案の修正	33
1 関係機関からの指摘と対応	33
2 最終変更案	35
3 駅前交差点の交差点飽和度の検証	36
4 段階的整備の考え方	37
IV 事業評価分析	41
1 道路の評価について	41
(1) 道路評価の考え方	41
(2) 便益の算定	42
(3) 費用の算定	48
(4) 費用便益比の算定	49
2 駅前広場の評価について	50
(1) 駅前広場評価の考え方	50
(2) 便益の算定	50
(3) 費用の算定	54
(4) 費用便益比の算定	54
3 事業評価分析のまとめ	55
(1) 便益の算定	55
(2) 費用の算定	55
(3) 費用便益比の算定	55

3) 広場規模及び施設量の考え方

ア. 将来乗降客数の推計

目標年次は、「世田谷区人口調査（平成9年度）」において、将来人口が推計されている平成28年とする。

将来乗降客数の推計は、駅勢圏の設定による想定と乗降客数の年次推移による想定を比較した上で、北口再開発による駅利用者を加えることで行う。

駅勢圏の設定による将来一般乗降客数は70,150人/日と推計され、乗降客数の年次推移による将来乗降客数は65,688人/日と推計された。年次推移による推計は相関係数が0.3494と低く、信頼度が低いことから、駅勢圏の設定による約70,200人/日を将来一般乗降客数とする。

イ. 広場規模の算定

平成10年パーソントリップ調査（以下、H10PTとする）による駅端末交通手段分担率は以下の通りとなっている。駅前広場が整備されていないため、自動車系の分担率が極端に少なくなっているため、次のような理由により補正した。

【H10PTによる経堂駅端末交通手段分担率】

バス	タクシー	自家用車	徒歩・二輪
0.74%	0.00%	0.26%	99.00%

- ・バスは、駅前広場供用時2路線、計画2路線が想定されていることや、駅前広場に乗り入れることを考慮し、現在の千歳船橋駅の分担率9.0%と設定する。
- ・タクシーは、駅前広場が整備されることや、小田急沿線基礎調査（平成2年度）では0.62%となっていたため、1.0%とする。
- ・自家用車は、現状0.26%を概数として、1.0%とする。
- ・徒歩・二輪は以上の残りとなる89.0%とする。

経堂駅の将来端末交通手段別分担率は以下の通りとする。

【経堂駅将来端末交通手段分担率】

バス	タクシー	自家用車	徒歩・二輪
9.0%	1.0%	1.0%	89.0%

駅前広場利用者比（ α 値）は、経堂駅が都心郊外の一般住宅駅としての性格と共に、地域生活拠点の性格を有するため、48年式郊外中心駅の $\alpha=2.5$ と、郊外一般駅 $\alpha=1.5$ の中間値である、2.0として算出する。

ピーク率は、48年式の既定値を用いるが、歩行者交通に関しては平成11年10月に小田急電鉄が実態調査した結果の12%を用いる。

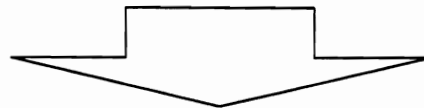
48年式および98年式による必要施設量は以下に示すとおりである。

【経堂駅前広場必要施設量の算出】

	48年式 必要施設量	98年式 必要施設量
バス乗車バース	3	3
バス降車バース	1	1
タクシー乗車バース	1	1
タクシー降車バース	1	1
タクシー駐車場容量	10	10
一般車停車バース	4	4

【広場面積の算定】

		考え方
将来乗降客数	基準年次	平成 10 年 64,451 人/日
	推計年次	平成 28 年 (世田谷区人口調査 (平成 9 年度) の将来人口推計年次)
	伸び率	<p>昼間人口である従業者・学生と従業者・学生以外のその他利用者 (常住地ベースで想定) の 3 種類から推計したものに、開発による新たな鉄道利用者を加算。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従業者: 22,452 人 (年次推移 (事業所統計より) により推計。) ・学 生: 7,408 人 (駅勢圏内の学校の学生数 (将来も変化なし) に代表交通手段「鉄道」分担率 (平成 10 年 P T) と経堂駅の利用割合 (大都市交通センサス) より算出。) ・その他: 40,287 人 (世田谷区人口調査 (平成 9 年度) の平成 28 年度町丁目別推計人口をベースにした伸び率 1.114 より算定。)
	将来乗降客数	70,200 人/日
端末交通手段分担率	バ ス	9.0% : バス路線の増加を考慮して現況の千歳船橋駅程度の 9% になると想定した。
	タクシー	1.0% : 現況の分担率は 0% であるが、平成 2 年度小田急沿線基礎調査では 0.62% (12 時間実測値より 1 日あたりを算出) となっており、周辺の鉄道駅との距離等を考慮して 1% と想定した。
	自家用車	1.0% : 現況の分担率は 0.26% であり、これを概数として 1% とした。
	徒歩・二輪	89.0% : バス、タクシー、自家用車以外の割合 89% (100% - (バス 9% + タクシー 1% + 自家用車 1%))。
	ピーク率	<p>歩行者: 12.0% (今回実測値)</p> <p>タクシー: 乗車 13.6%, 降車 11.1% (平成 2 年実測値)</p> <p>バ ス: 乗車・降車 20.0% (48 年式規定値)</p> <p>自家用車: 17.0% (48 年式規定値)</p>



施設規模	バ ス	乗車場	3 (算定値)
		降車場	1 (算定値)
	タクシー	乗車場	1 (算定値)
		降車場	1 (算定値)
	タクシープール		10 (算定値)
	自家用車停車バース		4 (算定値)

【経堂駅駅前広場面積の算出】

乗降客数	28 年式			48 年式	98 年式
	上限	標準式	下限		
70,200 人/日	9,100 m ²	8,500 m ²	6,200 m ²	2,700 m ²	3,600 m ²